

発想の転換

ユニクロは、オリジナル商品を開発することで売り上げを伸ばし続けています。期間限定や新商品など、流行り物に弱い消費者の心をガシッと掴めるアイデアを出し続けることで成長しています。

同じことは、飲食業界でも起きています。先日テレビで、全国チェーン展開をしている、人気のあるバイキングレストランの特集を見たのですが、新メニューを一年間で 40 種類以上出して、それをたった一人の担当者が考えているといいます。常に新メニューが登場することで、また違うメニューがあるから行ってみたい、というリピーター客の集客に繋がり、お店全体の売上を伸ばすことができます。

一の二社に言えることは、アイデアと発想力を武器に消費者にインパクトを与え続け、飽きさせないことで、売り上げを伸ばしていることです。

売り上げ増の取組は、行政に置き換えると収入増の取組につながると思います。

二浦市は、例年以上に財政状況が厳しく、各課が収入増を目指して、今までにない取組も始まっています。財政担当としても、現在の財政状況を打開するためにも、収入をたくさん増やしていきたいと思っています。しかし、アイデアを出したいという気持ちはありますが、なかなか思いつかないのが現状です。

前述したバイキングレストランの担当者の方は、たったひとりでアイデアを出し続けるハンデを克服するために、家族に協力を求めています。特に子どものアイデアは、担当者には、思いもよらない、新しい発想の



アイデアとして、新商品に活かされています。

市の収入増のアイデアを私の2歳半になる息子に求めることは無理ですが、子どもの発想力には、驚かされることがあり、2歳半になる息子は、“パンにヨーグルト”や“ご飯にイチゴ”を一緒にして食べたがったりしています。しかし、これが変な食べ方だと感じるのは、私の常識にとらわれているからかもしれません。アイデアを出すには、常識にとらわれない、或いは、常識を疑うようなことも必要です。そんな、発想の転換をして、収入が増えるアイデアを出していきたいです。

(財政課 下平 哲之)



暴論オピニオン 38

三浦市政策経営課では、行政経営全般について日頃から様々な無責任放談をしています。このコーナーではその放談の中で飛び出した暴論をご紹介します。両手を挙げて賛成できないまでも発想のヒントくらいにはなるでしょう。

モチベーション

モチベーションという言葉が定着して久しい。例えば、業務の効率を高めるためにモチベーションが重要であることなどは、今ではほとんどの人が認識していることではないだろうか。

ここで言うモチベーションとは、やる気を起こさせるために動機を与えることを意味するものであるが、今回の暴論では、このモチベーションについて考察してみる。

少し前に、当市の行政改革の計画である『5つの宣言』の基本理念等について、職員の理解を深めるための研修を行った。

内部の話ではあるが、その研修を実施する前に、政策経営課の中で、職員のモチベーションを巡り議論になっ

た事柄がある。その事柄とは、極めて厳しい財政状況を重点的に伝えるべきか否かについてである。

具体的には、土地開発公社の解散という多額の財政負担を要する取組について、重点的かつ積極的に、出来るだけ数値を挙げて説明すべきという立場がひとつ。

限られた時間の中で、その説明に重点を置くと、極めて厳しい財政状況の説明ばかりになってしまい、それでは職員のモチベーションが低下するばかりだから、重点的には説明をすべきでないという立場がひとつである。

みなさんはどちらの立場を選ばれるであろうか。政策経営課は、最終的には前者を選択したのであるが、その理由は次のとおりである。

確かに、「極めて厳しい財政状況を説明するだけでは暗くなるばかり」という意見も分かる。しかし、暴論なのであえて言わせていただくが、ネガティブではあっても正確な情報、これを受けてモチベーションを低下させるような職員で良いのかと。

受けとめ方や感じ方は人それぞれであることは間違いない。そうは言っても、三浦市が求める職員像を考えたとき、「ある事項について正しい判断を下すために、正確な情報は不可欠で



ある。むしろ、正確な情報を聞くことができない組織こそが、モチベーションを低下させる」と考える職員になるべきなのである。

行政改革の必要性がさらに高まっている事情をできるだけ正確に伝え、職員一丸となって進んでいこうとの意気込みで話をし、「そんなに大変だったのか。だったら、今まで以上に経費節減の努力をしよう。収入増加の取組を強めよう」との思いをもってもらうことを期待して前者を選んだのである。

研修後の受講者のアンケート結果では、「市の厳しい財政状況が理解でき、行政改革の必要性を感じた」という意見が多数であり、心配した「モチベーションの低下」を感想にあげた職員はごくわずかであった。筆者も前向きな反応に、ほっと胸をなでおろしたところである。

これからも正確な情報提供を行い、職員の正しい理解のもとで行政改革を進めていこうと、改めて決意したところである。

「ぼっこすこせえる」とは・・・神奈川県三浦市には三崎弁と呼ばれる方言があります。「ぼっこす」は「ぶち壊す」の意味、「こせえる」は「こしらえる」という意味です。つまり、「ぼっこすこせえる」は「ぶち壊し、こしらえる」=スクラップ&ビルドという意味になります。

次号(第49号)は8月19日発行です。



3S市長の経営視点

世界中を熱狂させた FIFA ワールドカップも、スペインの優勝で幕を閉じました。日本代表も開催前の評判を覆し、決勝トーナメント進出を果たすという快挙を成し遂げました。

その活躍が深夜にもかかわらず驚異的なテレビ視聴率を記録するなど、日本中を熱狂させたことはまだ記憶に新しいところです。

日本は世界のサッカー界の中で、技術や経験等において、ヨーロッパや南米などのサッカー先進国に比べると、まだまだ及ばない位置にあります。このことは、県内の裕福な自治体に囲まれた三浦市と同様な状況であるという思いを持ちます。

今回、世界の後進国である日本サッカーが世界の強豪に伍して決勝トーナメントに進出した要因は、スピードであり、骨身を惜しまない豊富な運動量であったと思います。そして、そのベースにあったものはチームの団結力でもありました。

私も市政に取り組む基本方針である「3つのS」の一つとして『スピード』を掲げています。また市民に対し骨身を惜しまず『親切、丁寧、思いやり』の心を持って対応することも方針としています。そして、三浦市は、それを実践するベースとなる団結力も持ち合わせています。

今回の快挙は、たとえ後進の立場にあっても、一致団結して事を成すことで、世界を驚かすようなことをなし得るという良い教訓ではないでしょうか。われら三浦市も団結力を生かし、日本を驚かせるようがんばっていきたいと思います。